

# CSR 報告書 2019



会社概要 (2019年4月1日現在)

社名 大電株式会社  
 DYDEN CORPORATION  
 本社 〒830-8511  
 福岡県久留米市南 2-15-1  
 設立 1951年3月10日  
 代表者 代表取締役社長 山倉 修一  
 資本金 4億1,290万円  
 従業員数 461名  
 事業内容 電線・ケーブル、電力機器、  
 FAロボットケーブル、産業機器、  
 ネットワーク機器およびこれらに  
 関連する製品の製造、加工、販売等  
 関連会社 大電商事株式会社  
 大電産業株式会社  
 クランダーワールド株式会社  
 大電塑料(上海)有限公司  
 大電機器人電纜(昆山)有限公司

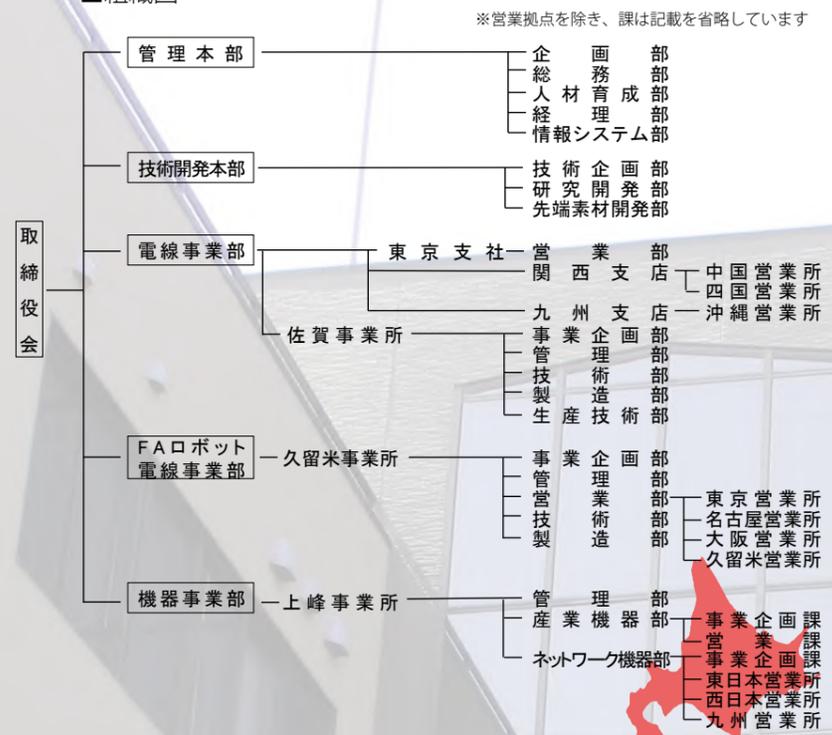
■ 報告対象組織  
 大電株式会社および大電産業株式会社

■ 報告対象期間  
 2018年度(2018年1月~12月)  
 (一部2018年以前の経過と2019年度の活動を  
 含みます)

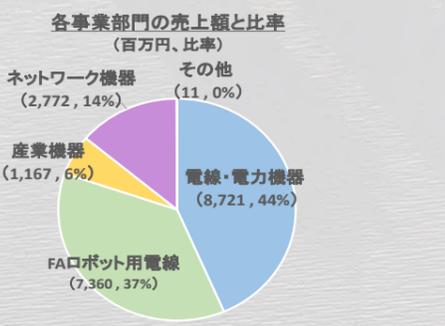
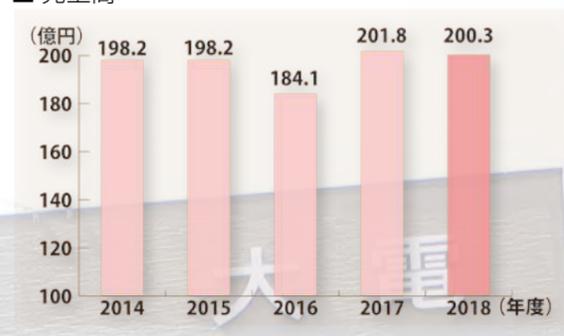
■ Webとの連携について  
 当社ホームページでも  
 ご覧いただけます。  
<http://www.dyden.co.jp>



■ 組織図



■ 売上高



■ 事業所拠点



電線・ケーブル / 電力機器

- 高柔軟性機器用電線「Dy-SOFT」
- 低風圧電線
- 無停電工用機材
- 特殊キャブタイヤケーブル「Dy-reCT」



電気のある生活を支える



FAロボットケーブル

- ロボットケーブル
- ネットワークケーブル



FAロボットケーブルのリーディングカンパニー



産業機器

- 油圧バルブ
- 電気リモコン
- バッテリーインジケータ
- 鉛蓄電池監視システム



世界中の船や自動車の運行をサポート



ネットワーク機器

- メディアコンバータ
- スイッチングハブ
- 回線切替装置



メディアコンバータ 国内シェア No.1\*



技術開発

- Leicoupler (レイカブラ)
- ケーブル被覆樹脂
- 蛍光体
- 有機EL材料
- アルミ合金導体



未来を創る



Contents ESG

- 03 Dyden's Highlights of 2018
- 05 トップメッセージ
- 06 当社の CSR 活動
- Governance
- コーポレートガバナンス
- 07 コーポレートガバナンス
- 07 コンプライアンス
- 08 リスクマネジメント

Society

- 社会活動報告
- 09 品質への取り組み
  - 10 化学物質管理について
  - 11 吉田学術教育振興会
  - 13 インターンシップの受け入れ
  - 13 工場見学の受け入れ
  - 14 地域イベントへの参加・協力
  - 14 アートカレンダー
  - 15 従業員の採用・雇用
  - 15 ダイバーシティ活動
  - 16 ワークライフバランス
  - 16 人材育成
  - 16 福利厚生
  - 17 自己啓発支援
  - 17 社内クラブ活動
  - 17 DYP (ダイパワー) 活動
  - 18 安全衛生活動
  - 18 メンタルヘルスケア

Environment

- 環境活動報告
- 19 環境マネジメント
  - 21 環境配慮製品の開発
  - 23 環境実施計画の目標と実績
  - 24 地球環境保全活動の主な取り組み
  - 25 マテリアルバランス
  - 26 地球温暖化防止/省エネルギー
  - 27 環境会計
  - 28 生物多様性保全
  - 29 環境コミュニケーション
  - 30 法令遵守

\*財団法人キメラ総研「2018年コミュニケーション関連マーケティング調査総覧」による

# Dyden's Highlights of 2018

## ロボットケーブル用新工場 町と協定を締結

8月31日、みやき町庁舎防災センターにおいて、中原工業団地への進出に関する協定締結式が執り行われました。今回の進出は、ロボットケーブルの需要増および事業拡張に備え、工場用地を確保したものです。今後はロボットケーブル工場を建設し、2020年の操業開始を目指しています。締結式には、山倉社長、津地専務、大電産業の森山社長をはじめ、社内の関係者や佐賀県およびみやき町の方々、マスコミ関係者が出席しました。関係者の挨拶および協定書締結が行われ、みやき町の末安町長から「町の産業振興や地域活性化につながると確信しています」とのコメントをいただきました。



みやき町、大電、大電産業 締結式 2018年9月1日付 佐賀新聞

式終了後には、記者会見が行われ、ロボットケーブルの需要拡大の理由や今後の雇用計画など、多くの質問がありました。

協定締結の様子は、西日本新聞（佐賀版）、佐賀新聞、九建日報等に掲載されました。

## 佐賀新聞 ものづくり特集記事に掲載



電線事業部 溝口さんの記事が、佐賀新聞の戦略的ものづくりプロモーション事業「ものづくりに恋をしました」特集に掲載されました。

この特集は、佐賀県内のものづくり企業にスポットを当て、将来は、製造業で働くことを考えている工業高校生に、その企業の魅力や素晴らしさをアピールし、生徒や保護者が「地場企業で就職したい」、「子どもに県内で働いてほしい」という思いを抱いてもらうことを願って企画されたものです。新聞では、業務内容や後輩の指導ポリシー、ラインカンパニーの社長を経験して良かった点や今後の目標などが、全5段カラーで掲載されました。

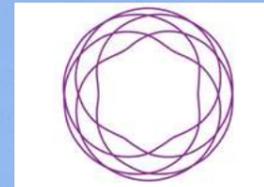
## 佐賀県労働局長賞（奨励賞）を受賞



上峰事業所が佐賀県労働局長賞（奨励賞）を受賞し、10月9日に佐賀県産業安全衛生大会（佐賀市文化会館）において表彰されました。この賞は、安全衛生に関する取り組みが、他の模範として認められる事業所に対して表彰されるものです。

今後も「安全は、何事にも最優先」という認識のもと、「安全で、働きやすい事業所」を目指し、安全衛生の取り組みを積極的に推進いたします。

## 地域未来牽引企業に選定



地域未来牽引企業



経済産業省によって選定される「地域未来牽引企業」に、当社がその内の1社として選ばれました。地域未来牽引企業とは、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより、地域の経済成長を力強く牽引する事業の積極的展開が期待される企業のことです。

当社は、地域未来牽引企業としての期待に応えるために、継続的に事業を発展させるとともに、地域経済への成長にも貢献することを目指していきます。

## Interop Tokyo 2018 で審査員特別賞を受賞



ネットワーク機器部は、6月13日～15日に幕張メッセで開催された「Interop Tokyo 2018」に、インテリジェント SW-HUBをはじめ、開発中の100G用メディアコンバータ製品等を出展いたしました。出展企業各社からエントリーされる選りすぐりの新製品の中から「今年の一品」を決定するBest of Show Awardでは、300近い製品の中から当社の3製品がファイナリストに選出され、最終審査を経て「2心版光バイパススイッチ DNOSWE-C」が審査員特別賞を受賞しました。

## 高機能コンパウンドの開発拠点 竣工



佐賀事業所に第二コンパウンド工場が竣工し、2月26日に竣工式を執り行いました。今回の工場建設は、自社配合の高機能樹脂材料（塩化ビニル系を除く）を内作して、電線・ケーブルおよびその関連製品の競争力を強化することを目的としたものです。

充電ケーブル用被覆材の量産体制を早期に構築し、順次、自社配合被覆材の内作化を進めていきます。さらに、新たな樹脂材料の研究・開発に取り組み、付加価値の高い電線・ケーブル用被覆材のラインアップ拡充を目指します。



# トップメッセージ



## 2018 年を振り返って

2018 年度は、国内外の政治に関しては不安定な状況でしたが、経済に関しては前半好調、後半は減速の一年でした。機器事業部が業績を牽引し、電線事業部も黒字化出来たことで、最高益を三年連続で更新しました。

昨年は中期経営計画の二年目でしたが、利益計画については、三年目の目標に大きく近づきました。これは、海外子会社からの初めての配当が貢献したものです。設備投資はF A ロボット電線事業部を重点に、計画を前倒しで進めました。中長期的にはF A ロボット分野は更に需要が高まる見通しであり、これに対応するために、中原工業団地に用地を取得しました。今年から建設工事をスタートします。

設備投資も、人への投資も増やしている中での最高益の更新は、価値があります。これもひとえに、当社を支えて頂いたステークホルダーの皆さまによるものと、心より感謝申し上げます。

当社を取り巻く環境は、常に変化しており、かつそのスピードはますます速くなっており、将来に向けた事業構造の質的転換を急ぐ必要があります。

当社の競争力を高める3つの施策は、①人材育成 ②設備投資 ③新製品開発 です。5年後の当社を支えるのは、今の設備投資と新製品開発。10年後を支えるのは今の人材育成と認識しています。昨年より主査研修を始めました。今年も主任研修も計画しています。職位に求められているニーズを明確にすることで、協働を増やしたいと考えています。

## 2019 年度 社長方針について

「協働を強み、競争力に変え、更なる発展に繋げる」～一人ひとりが成長する、成長を支援しあう～

変化の激しい事業環境や社会の中で、当社が継続的に発展していくためには、市場の変化、技術革新の動向、お客様の変化に迅速に対応できるよう当社のあらゆる業務を変革し、市場が認め、かつ業績に貢献する「新たな価値」をスピード感をもって創造していくことが大切であるという認識は、変わりません。

そこに、本部一事業部間の協働を増やしていけば、スピードは、更に高まります。このことから、2019年度の社長方針は、「協働を強み、競争力に変え、更なる発展に繋げる」～一人ひとりが成長する、成長を支援しあう～ としました。変化を恐れない、一人ひとりの成長に期待する文化に変わっていくことを期待しています。

## 2019 年度の抱負

国内経済は、米中貿易摩擦の影響から、停滞感が強まっています。逆風満帆であっても人材育成、設備投資、新製品開発という準備さえきちんと出来ていれば心配無用です。

「人も会社も発展途上」新工場の建設に注力し、次のチャンスを確実につかむことだけ考えていきます。「明るく、楽しく、元気な、九州に根ざしたグローバル企業」を目指し、社会から信頼される会社経営を真摯に行ってまいります。

引き続き、皆さまのご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長

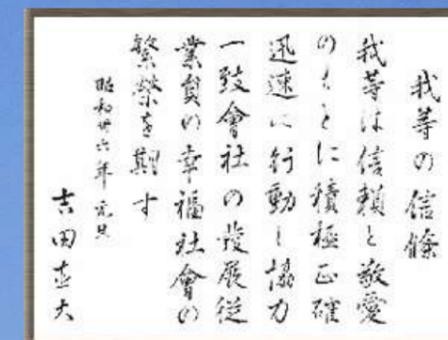
山倉 修一

# 当社の CSR 活動について

当社は、創業者が掲げた企業理念である「我等の信條」を通じ、従業員の幸福ならびに社会の繁栄に役立つことを願い、活動してきました。従って、CSR 活動は、当社社員にとって決して特別な活動ではありません。これからも、この理念を大切にし、皆さまとともに CSR 活動を行って参ります。

## 我等の信條（企業理念）

我等の信條は、創業者である吉田直大が昭和三十六年に掲げた企業理念で、現在でも全社員が深く共有しています。



## 経営指針

当社は、「人」と「技術」をベースに、絶えず新しい価値の創造に向け、進取で活力のある事業の推進に最善を尽くします。

## 行動指針

当社は、行動指針である以下の8つの努力を通じ、我等の信條と経営指針の体現を目指します。

1. お客様第一・品質重視
2. 独自技術の開発
3. 自己実現の達成
4. 根拠と確信のある仕事
5. 能率の向上・効率化
6. 明るい職場作り
7. 地域社会への貢献
8. 適正利潤の確保



創業者の銅像(久留米市本社)

## ESG とのかかわりについて

当社は、2003年に環境保全活動に基づく環境報告書を初めて発行し、さらに2012年からは、社会貢献活動、コーポレートガバナンスへも対象範囲を拡大し、CSR 報告書として発行してきました。我等の信條の体現が、ESG の視点を含む広義の CSR 活動になると考え、今後も積極的に取り組んで参ります。



当社は、我等の信條にある「会社の発展を通して、従業員の幸福と社会の繁栄に貢献する」を実現するための経営マネジメントを実施しています。

コーポレートガバナンス

● 業務執行体制

当社は、取締役会による執行体制を採用するとともに、監査役や会計監査人による監査体制を採用しています。また、経営協議会・常勤役員会を開催して経営に関する基本事項、計画、課題等について協議を行っています。さらに定期的に部門長会を開催し、各部門の中期経営計画や年度方針・目標の進捗状況について認識の共通化を図っています。

内部統制活動の制度としては、コンプライアンス委員会や情報セキュリティ委員会を設け、法令遵守や適切な情報管理に努めています。

コンプライアンス

2017年以降に品質偽装をはじめとする多くの企業の不正報道が続き、従来以上にコンプライアンスが注目されました。企業の不祥事や不正は、社会的信用を失墜させ、社会や経営に悪影響を及ぼします。

当社は、不正は起こりうるものとしてそれを予防するコンプライアンス経営を重視し、コンプライアンス基本方針のもとコンプライアンス委員会を設置し、規程類の充実とともに実効性のある取り組みを行っています。

● コンプライアンス推進体制

ーコンプライアンス基本方針ー

1. 法令の遵守
2. 公正、適正な企業活動
3. お客様第一・品質重視
4. 地球環境への配慮
5. 地域社会への貢献
6. 明るい職場づくり
7. 適切な情報開示

コンプライアンス委員会



● コンプライアンスの取り組みについて

企業の不正は、社会全体に対しても損失を及ぼします。当社は、社内倫理を確立し、企業の社会的責任（CSR）を果たすためには、コンプライアンス経営の根幹となる法律知識と実践的な価値判断基準を有する人材の育成こそが最も重要であると考えています。

2018年度は、ハラスメント防止に向けて規程類の整備を行うと共に、10月はコンプライアンス推進月間として広範囲な対象者に対して研修教育を行いました。研修では毎回アンケートを実施して効果を測定し、継続的な改善につなげています。

コンプライアンス関連活動の主な取り組み

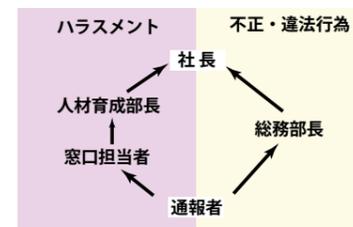
月	項目・テーマ	対象
4月	新入社員研修 新任管理者研修	新入社員 新任管理職
10月～12月	役員法務研修 独占禁止法研修 海外PL研修	取締役 営業担当者 営業担当者他

同時に当社では、内部通報制度を設け、法令違反や不正行為を早期に発見する仕組みを制定しています。通報者に対して、いかなる不利益な取り扱いも行わないことを定め、これを浸透させることで、不正を防ぎ、発見しやすい仕組みを定着させる取り組みを行っています。品質に関する疑義が発生した場合は、正確かつ迅速な情報収集を行い、統括部署がお客様への影響を最小化する体制を整えるようにしています。

● 社内誌を通じた広報教育

下記の内部通報制度を導入しておりますが、社員へのさらなる浸透を図ることを目的に、2018年は、研修教育に加えて社内広報誌を活用しております。会社広報誌では、興味のない社員にも理解を深めてもらうことを目的に、マンガ形式での教育啓蒙の試みを行いました。

今後も、社会的信用を担保する重要な取り組みとして教育活動を継続いたします。



内部通報の仕組み

社内内部通報制度の解説（社内広報誌より一部抜粋）



リスクマネジメント

当社は、事故・災害、各種の感染症や情報の漏洩等、起こり得る、または、不測の事態を考慮し、リスク管理体制の整備を行っています。

● 危機管理

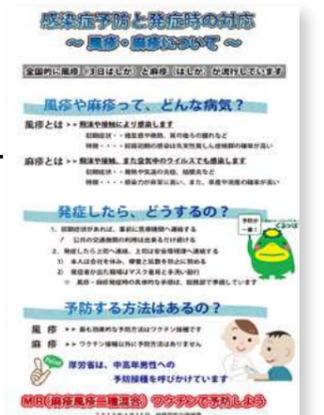
当社は、職場の潜在的な安全リスクを適正に評価し、定期的なモニタリングを実施しています。さらに今後は、激甚災害を想定した危機管理体制についても整備いたします。

● 情報セキュリティマネジメント

当社では、「情報資産」および「情報システム」を適切に保護する行動指針を定めた「情報セキュリティ基本規程」のもと、「情報セキュリティハンドブック」を2017年に発行しました。必要に応じて専用情報セキュリティサイトや電子メール等を通じて、リアルタイムに必要な通知や教育を行うこと、SNS等を通じての機密事項流出や守秘義務についても明確にし、情報セキュリティ事故の予防に努めています。

● 感染症対策

風しん・麻疹を含む感染症に対しては、管理統括部門が最新の情報収集に努め、リスク拡大を未然に防ぐ活動を行っています。



感染症予防啓蒙ポスター

品質への取り組み

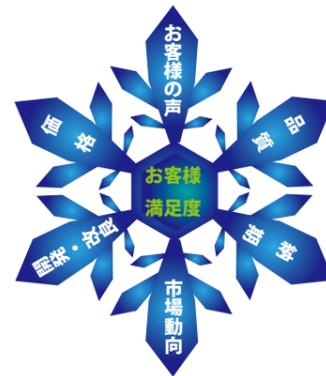
当社は、「お客様第一・品質重視」のもと、絶えず変化する市場やお客様のご期待に応えるために、新たな製品開発を行うと同時に、各事業所で ISO9001 の認証を取得し、国際規格に適合した品質マネジメントシステムを構築し、継続的な品質改善活動を行っています。

● お客様満足度の向上

当社は、品質マネジメントシステムの活動の中で次の重点項目を定め、その実現に向けた取り組みを進めています。

- ①品質の安定向上
- ②コストの低減
- ③適切な納期対応
- ④ニーズに応える製品の改良・開発

取り組みの効果は、各事業所毎にお客様満足度調査で確認し、品質マネジメントシステムの継続的な改善に反映させています。



● 製品の信頼性確保

お客様の期待や信頼に応え続けることは、企業の社会的責任であり、そのために当社は、法令遵守はもとより、製品開発から販売・納入に至る全てのプロセスにおいて徹底した品質管理を実施しています。また、最新の検査および信頼性試験装置等を導入し、お客様のご期待にお応えできる品質管理体制を構築しています。

材料の自社開発

電線・ケーブルの性能に影響する被覆材は、近年耐油性、難燃性や高柔軟性など高機能化の要求が高まっています。

この様に多様な市場ニーズに応えるため、当社は 1968 年から被覆材料の内作化に着手し、独自の配合と生産に取り組んでいます。長年の経験に培われた被覆材料内作技術は、当社製品のユニークな特徴の源泉となっています。



引張試験機 (佐賀)



PVC コンパウンドペレット

時代に即した環境対応

RoHS 指令制限物質追加に代表されるように、最近では多様な環境規制に対応した製品開発が要求されるようになり、厳格な品質管理と環境物質への対応が求められています。当社は、ベンダー様と協調するとともに、社内でも新鋭機を導入し各種分析を行い信頼性の確保に努めています。



蛍光 X 線分析装置 (佐賀)



GC-MS 分析装置 (久留米)

長期信頼性試験の実施

産業用ロボットケーブルでは高度化するロボット技術に合わせて、より信頼できる製品作りが求められています。FA ロボット電線事業部では、最新の信頼性試験機や寿命シミュレーションソフト等の導入を積極的に行っています。



ケーブル寿命試験機 (久留米)

インラインによる品質保証

全ての製造プロセスで品質を作り込むため、インラインでの寸法検査や外観検査等を導入し、高品質製品の安定生産と生産の効率化を図り、次工程への保証と信頼性の充実に努めています。



画像検査ロボット (上峰)

完成品検査による検証

お客様に安心と満足を戴ける製品をお届けするために、必要な検査を計画し、確実に実施することで、狙いの品質に対する出来栄の品質を、検証・評価しています。



バルブ耐圧試験機 (上峰)



耐電圧試験機 (佐賀)

● 自ら考え行動できる人材づくり

当社は、「品質は、人なり」のもとに、人材育成のための教育・訓練を計画的に行っています。また、業務改善などの職場内活動を通じて、社員一人ひとりの品質意識高揚に努めています。

電線事業部 (佐賀)、産業機器部 (上峰) では職場内活動としてラインカンパニー活動を導入し、現場力強化に取り組んでいます。



ラインカンパニーの活動

化学物質管理について

● 化学物質管理体制

当社は、化学物質管理を実施するにあたり、社内標準「化学物質管理標準 (規程)」を制定し、運用しています。この標準には、管理体制や役割及び責任、法令の遵守、運用管理、関連文書、提出書類等について記載しています。事業所の運用管理については、関連文書に準じています。

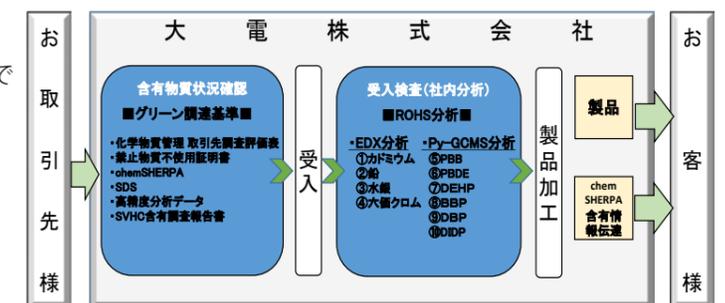
<関連文書>

- (1) 環境マニュアル (各事業所)
- (2) 品質マニュアル (各事業所)
- (3) 有害化学物質管理規程 (久留米事業所)
- (4) 含有規制化学物質管理標準 (佐賀事業所)
- (5) 含有規制化学物質管理標準 (上峰事業所)
- (6) グリーン調達運用標準 (久留米事業所)
- (7) グリーン調達基準 (久留米事業所)
- (8) 環境法規制等一覧表 (各事業所)

● RoHS 指令・REACH 規則の対応

当社は、2005 年に久留米事業所において化学物質管理体制および「グリーン調達基準」を制定し、RoHS 指令等内外の化学物質関係法令に対応した禁止物質や管理物質を定め「有害化学物質を入れない、使わない、出さない」ための対応を行っています。2008 年 10 月に欧州 REACH 規則の SVHC※ 第 1 次 (15 物質) が公開されて以来、SVHC は追加公開が続き 2019 年 1 月には合計 197 物質となりました (第 20 次)。また RoHS 指令においては、2019 年 7 月 22 日 (カテゴリ 8・9 以外の製品) にフタル酸エステル類の 4 物質が追加されます。製品に含有される化学物質を適正に管理し、拡大する規制に継続的に対応するため、当社は、chem SHERPA の運用を開始し、化学物質調査スキームを構築するとともに「グリーン調達基準」の内容を適時改訂しています。

当社のグリーン調達 (イメージ)



※ SVHC…Substances of Very High Concern (高懸念物質)。発がん性などの毒性が懸念され、REACH 規則で使用の認可の対象になる物質



当社は、「地域社会への貢献」を行動指針のひとつとし、地域社会との共生を目指した活動を行っています。

吉田学術教育振興会

● 公益財団法人吉田学術教育振興会とは

1985年5月に大電株式会社の創業者である吉田直大が、「学術教育の振興こそ、社会発展の基礎である」という信念に基づき、設立した財団法人です。

その前身は、1958年に創業者吉田直大が私財を投じて母校に設けられた吉田奨学会で、その精神と活動は継続しています。

設立以来、30年以上にわたって、大学・高専等の研究者への学術奨励金の交付、高校生・高専生・大学生への奨学金の給付、小・中・高校への図書・教材の寄贈等を行い、福岡県の学術教育の振興を資金的な側面から支援しています。現在では、福岡県内有数の研究助成財団、奨学財団という評価をいただくに至っています。



初代理事長 吉田直大



現理事長 井上 誠二

● これまでの活動状況

1985年から学術奨励金、奨学金、振興助成金、図書等の贈呈を行っています。当振興会の特徴は、「学術教育の振興こそ、社会発展の基礎である」という創業者の信念に基づき、当振興会が行う事業の学術奨励金・振興助成金・奨学金の贈呈等は、一切返済不要で、使用についての条件は付けません」というものです。

これまでの実績（2019年4月現在）

贈呈金額	7億6,281万円
学術奨励金人数	155名
奨学金述べ人数	1,158名
振興助成金寄贈数	412箇所
図書等の贈呈数	1041校

● 学術奨励金

当財団は、福岡県内の大学・高専等の研究機関に在籍する研究者に対し、近未来の社会生活に役立つ研究を一般公募し、研究費を助成しています。

2019年3月に学術奨励金として次の5件の研究に対し、各200万円を贈呈しました。

- 1) 前田憲成様 九州工業大学 大学院生命体工学研究科 准教授  
「医薬品汚染水環境を浄化するための環境適応機能と微生物分解機構の解明」
- 2) 村上直也様 九州工業大学 大学院工学研究院 准教授  
「非同期光触媒反応による高選択的物質変換」
- 3) 金房純代様 九州大学 大学院工学研究院 助教  
「発酵代謝産物増産に向けた新規食品加工技術の構築」
- 4) 大川原徹様 北九州工業高等専門学校 生産デザイン工学科 准教授  
「生分解性ポリマー産生微生物スクリーニングのための両親媒性AIE色素の開発」
- 5) 末松昂一様 九州大学 大学院総合理工学研究院 助教  
「初期疾患スクリーニングに向けた半導体ガスセンサの粒子間ナノヘテロ界面制御」

研究者4人に学術奨励金を贈呈

公益財団法人吉田学術教育振興会（福岡県久留米市、理事長・井上誠二大電相談役）はこのほど、福岡県内の大学や高専に所属する理工系の研究者を対象とする学術奨励金事業で5件を選出し、合計1000万円の奨励金を贈呈した。今回は35件の応募があり、選考の結果、梅井伸浩・九州大大学院応用化学部門准教授の「最大効率200%の光化学反応系の実現」、堀飛敏・久留米工業高等専門学校一般科目（理科系）准教授の「非交互共役分子を用いた新規機能色素の開発」、白木智史・九州大大学院工学研究院応用化学部門助教の「環境負荷低減に資する異種元素ドーピング多孔カーボン材料の開発とそれに基づく高性能電気化学デバイス創製」、岡仲人・近畿大産業理工学部生物環境化学科准教授の「電気を流すガラス（バナジウム酸塩ガラス）微粒子の開発、および金属空気電池電極材料への応用」、今給黎明大・九州工業大大学院工学研究院電気電子工学研究系・助教の「高効率な埋込磁石同期電動機(IPMSM)構造の提案と定出力領域のIPMSM駆動方法改善」が選ばれた。

財界九州 2018年5月号に掲載されました

● 奨学金・入学支度金贈呈

選考委員会を開催し、2018年度の奨学生72名を決定しました。奨学金総額は1,562万円となり、これまで過去33年間の奨学金の累計総額は2億4,034万円となりました。併せて、入学支度金給付生の選考を行い、9名を内定しました。奨学生、入学支度金給付生の決定を受け、各学校を訪問して贈呈式を行いました。



各学校を訪問し、贈呈式を行いました

● 教材の贈呈から1年、活動状況の報告がありました

毎年、教育の振興・発展を目的に、県内の小中高校に50万円相当の教材を贈呈しています。昨年は、15校に合計750万円ほどの教材を寄贈しました。寄贈から1年が経過し、活用状況の報告が寄せられてきました。その中から、福岡県立三池工業高等学校、小竹町立小竹中学校の活用状況報告をご紹介します。

三池工業高等学校には、高圧洗浄機2台、マイクロシーケンサ4台、デジタルビデオカメラレコーダー1台、リモコン三脚1台、体育の授業等に使う用具一式を寄贈しました。



寄贈したプロジェクターを使った授業

小竹中学校には、iPad6台、生物顕微鏡6台、プロジェクター1台を寄贈しました。プロジェクターは、調べ学習等の成果を発表する機会も増え、より効果的なプレゼンテーションを工夫する姿勢が表れるようになったとのことでした。

● 教育振興助成事業の特別助成を行いました

当財団は、教育関係諸団体の主催する行事、活動に対し、教育振興助成事業の一環で特別助成を行っています。朝倉市では、市内小学3～6年生30人程度を対象に、毎年春と夏に二泊三日のキャンプを行っており、集団生活、自然体験、異年齢との交流等を通して、自主性や協調性、積極性、忍耐力等を養っているとのことで、当財団から野外調理用具、テント、保冷庫等の購入資金を贈呈しました。



朝倉市教育委員会の文化・生涯学習課の皆さんと

インターンシップの受け入れ

2018年度は、**3名**受け入れました。

当社では、高専・高校等からの要請に基づき、毎年インターンシップ生を受け入れています。

8月に3日間の実習に来られた工業高校の2年生には、FAロボット電線事業部の製造部と管理部品質管理課で、設備メンテナンス作業の立会い、製品検査の補助作業等を行っていただきました。インターンシップ生からは「実際の職場の雰囲気や、ケーブルについて詳しく知ることができ、とても充実した3日間でした。今回経験したことを活かして残りの高校生活を頑張りたいと思います。」との感想が聞かれました。3日間の就労体験は、とても有意義なものとなったようです。



また、2018年は、学卒の採用活動における広報活動の一環として、**学卒理系2daysインターンシップ**を8月に開催しました。Webサイトを通して応募した学生の中から、大学院生1名を含む理系大学生2名が参加され、ケーブル設計・開発業務の就業体験をFAロボット電線事業部の技術部にて行って頂きました。

参加した学生から「普段は見る事ができないBtoB企業やその製品が様々な場所で活躍していることが分かった。」「製造に至るまでに様々な工程があり興味深かった。」という感想が聞かれ、就職活動の参考となったようです。



工場見学の受け入れ

2018年度は、**409名**の方々が見学されました。

● 久留米事業所

5月に八女工業高校電気科3年生38名が来所されました。見学では、複雑な動きをするロボットに使用されているケーブルの耐久性や信頼性の高さに驚かれていました。また、事業所の整った職場環境や作業者の明るい雰囲気に好印象を持っていただけました。質疑では、製品の価格はどのように決定されるのか等、活発に質問をされていました。



● 上峰事業所

5月に八女工業高校情報技術科2年生38名、6月日に鳥栖工業高校電子機械科1年生40名による上峰事業所見学がありました。見学では最新の生産設備に興味を持たれていたのが印象的でした。見学後の質疑では、入社する際に必要な資格等について質問がありました。



～ ようこそ工場見学へ ～

10月12日、3年ぶりに久留米市立南小学校3年生児童が久留米事業所の工場見学にやってきました。

南小学校では、3年生の学習で『校区発見』という校区内の施設学習があり、その一環として当社工場を見学されたものです。元気いっぱいな150名の小学生たちで工場内が賑わいました。



地域イベントへの参加・協力

● 久留米水の祭典

地元久留米市では、毎年8月4日に「くるめ水の祭典1万人総踊り」が開催されており、当社も毎年参加しています。2018年は昼休み時間に練習に練習を重ねた169名が参加し、2時間、全力で踊りを披露しました。



● 筑後川花火大会

8月5日、久留米市で第359回の筑後川花火大会が開催され、今年も大電グループ（大電・大電商事・大電産業）で協賛いたしました。大電グループの花火は、ケーブルをイメージした花火等、約3分間にわたり夜空を色鮮やかに染め上げました。



久留米市 筑後川花火大会

美化活動

2018年度は、のべ**358名**が参加しました。

各々の事業所において、毎年6月5日に設定されている「世界環境デー」にちなんで、事業所周辺の美化作業を行いました。6月以外にも夏や秋に事業所毎で計画し、積極的な環境活動に取り組んでいます。

すっかり恒例となった終業後の自主活動ですが、それぞれ多数の社員が参加し、さわやかな汗を流しました。



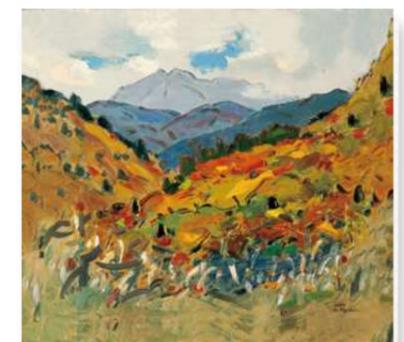
事業所周辺美化活動

アートカレンダー

地元に関わる画家を起用し、ささやかな文化支援活動を行っているわが社のカレンダーも、2019年で65作目となりました。絵画には、江口（えぐち）登（のぼる）氏の「深秋の由布岳遠望」を選定しました。

江口氏は、福岡県久留米市出身の洋画家で、1991年に日展に初入選、以降7回にわたり入選されています。現在は、各展覧会や個展、グループ展で作品を発表される傍ら、一般社団法人示現会の審査員、久留米連合文化会の役員として文化芸術の振興に活躍されています。

今回選定した「深秋の由布岳遠望」は、江口氏のおききで描かれたもので、紅葉で色づいた峠から見える由布岳が力強くも優しく表現されており、秋の風情を感じます。



2019年 大電アートカレンダー

# 従業員のために



当社は、「人と技術をベースにした経営」を理念として、従業員の採用・雇用、人材育成、福利厚生などの充実に取り組んでいます。

「人と技術をベースにした経営」を実践し、従業員が成長できる環境を作ることが重要であると考えています。従業員の価値観は、今後益々多様化していきます。そのような中で、従業員の採用・雇用、人材育成、ワークライフバランス、福利厚生等の充実に取り組んでいます。

## 従業員の採用・雇用

新しい価値の創造に向け、進取で活力のある事業の推進を図っており、そのベースは「人」と「技術」であると考えています。とりわけ、「人」は、当社にとって大切な財産です。

給与・処遇面では、2014年以降5年連続でベースアップを行う等近年大幅に改善を行っています。また、社員が安心して働ける職場環境づくりにも力を入れており、その成果は定着率の高さ(直近10年の新卒採用3年以内の離職率0%)に表れています。

入社人数および入社後3年以内の離職者数の推移

(単位:人)

項目	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
入社人数	7	7	16	15	18	12	16
3年内退職者数	0	0	0	0	(0)	(0)	-

※対象者:各年4月の新卒入社数(院卒・大卒・高卒・短大等その他)  
※括弧内数値は、2019.4.1 現在の実績

## ダイバーシティ活動

### ● 女性活躍推進

2015年10月、女性活躍に関する基本方針『女性も能力を十分発揮できる環境を整備し、女性活躍を推進する』を掲げ、毎年「女性活躍推進セミナー」を開催しています。3年目となる2018年11月には、10年後(2028年)の数値目標[1.全社員に占める女性割合を20%以上 2.女性管理職3名以上]を打ち出しました。そのための取り組みとして、現在、女性の採用強化、女性職場の新規開拓、女性の能力開発およびリーダー育成、キャリア支援制度の充実等、女性活躍を計画的に推進しています。



女性活躍推進セミナー

# 社会活動報告



## ワークライフバランス

### ● 年休取得率

ワークライフバランスの観点から、数値目標を掲げて年次有給休暇の取得促進に取り組んできました。昨年は、積極的な取得促進活動により全社平均15日以上/人の目標を達成することができました。今年は、更なる定着を目指します。

＜2019年度年休取得目標＞  
目標：全社平均取得日数 15日以上/人

※期間：2019年3月16日～2020年3月15日〔1年間〕

また、目標を掲げるだけでなく、様々な取り組みを展開しています。誕生日の年休取得や誕生日に1日プラスして連続休暇を取得することを推進したり、土日に2日連続して年休をつなげ長期休暇を取得したり、社員が年休を取得しやすいような施策を打ち立てています。

今後も職場内の年休スケジュールの作成や取得状況の共有を行いながら、目標達成に向け取り組んでまいります。

### ● 時間単位年休制度

近年、個人のライフスタイルが多様化していく中で、柔軟な働き方を支援する施策の一つとして時間単位年休制度を新たに導入しました。これは、育児や介護、通院、その他家族に関連する用事等で短時間の用事を済ませたい時に活用することができる制度で、社員の様々なニーズにも柔軟に対応できる働き方をサポートするものです。



当社は、子育て支援に積極的に取り組む「子育てサポート企業」として、厚生労働省から「くるみん認定」を受けました。

## 人材育成

当社は、人と技術を第一の経営資源と考えており、人材育成については、当社独自の能力開発体系をベースに継続的な取り組みを行っています。

### ● 主査研修

2018年は、階層別研修として「主査研修」を初めて開催しました。「主査」は、管理職の一つ手前の階層であり、研修では「主査」の役割の再認識を皮切りに、スキルとしてのリーダーシップ、フォロワーシップ、さらに問題発見・解決能力を学びました。研修を通して随所に設けられたグループワークでは、事業部や職種の垣根を越えたコミュニケーションが図られ、自身を見つめ直す良い機会にもなっており、モチベーションの向上にも寄与しています。



主査研修

## 福利厚生

### ● カフェテリアプランの導入

昨年、福利厚生制度の更なる充実を図るため、カフェテリアプラン制度を導入しました。カフェテリアプランとは、様々な福利厚生メニューの中から社員が付与されたポイント内でライフスタイルに合わせ、自由にメニューを選び、利用する選択型福利厚生サービスです。

メニューには、生活や健康、育児、介護、宿泊・旅行、レジャー、自己啓発といった多彩なサービスを用意しています。社員に限らず家族も使えるメニューを取り揃えており、個人のニーズや目的に応じて日々の暮らしの中で必要とされるものについてサポートしています。



カフェテリアプラン使用手引

会社概要

活動ハイライト

トップメッセージ

ガバナンス

社会活動報告

環境活動報告

自己啓発支援

人材育成は、「経営の柱」との考えのもと、社員の学ぶ意欲に対して支援を行っています。

通信教育の受講促進として、受講費の50%~100%を会社が負担し、現在は、50%を超える受講率となっています。

英語教育にも力を入れており、業務上英語が必要となる社員へは、英会話教室への受講支援を行い、プライベートな目的も含め、英会話を学びたい社員へは、インターネットを利用したオンライン英会話の受講支援も行っており、年々受講希望者が増加しています。



インドアスポーツ部

社内クラブ活動

当社は、福利厚生、健康活動の一環として、社内クラブの活動支援も積極的に行っています。昨年は、新しいクラブも発足する等、活動も多様化しています。

● 5社対抗テニス大会

11月3日、アサヒシューズ、ブリヂストン、ムーンスター、久留米市役所、大電の五社による秋季五社対抗テニス大会が開催されました。大会は、各社ダブルス5ペアでの団体戦総当たり、1勝でも多く勝った企業が優勝となります。大電は、人数と声の大きさを武器に、文字どおり熱戦を繰り広げ、会場を大いに沸かせるも残念ながら結果は4位。しかし負けた試合の多くが1、2ゲーム差とその差はわずかで、部員達は、大電テニス部のレベルアップを実感できた大会でした。



テニス部

● インドアスポーツ部を発足

インドアスポーツ部は、バドミントン・ソフトバレー等の体育館で行う様々なスポーツを楽しく行う交流の場として発足しました。毎月2、3回開催し、参加者はいつ来て、いつ帰ってもOK！それぞれの生活に合わせ、気軽に参加できる新しいタイプのクラブ活動です。

DYP (ダイパワー) 活動

● DYP (ダイパワー) 活動とは

DYP 活動とは、1983 年度から活動を開始した当社独自の小集団活動です。グループにより改善を行う課題活動と社員の提案により改善を行う提案活動があり、優秀な活動に対して表彰を行っています。

◆ DYP 個人提案件数の推移



◆ 2018 年度 DYP 活動発表

1) 「423 号ロボットトップ押し品質向上について」  
(電線事業部 製造部 上野氏)

ロボットトップ製品のシーす押し時に、被覆したシーす容易に引き抜いて剥くことができない「引き抜き異常」が多く発生していた。作業状況を確認し、問題点を探ったところ、タルク粉の塗布ムラが原因であることが分かり、タルク装置の位置やタルク粉の初期投入量、飛散設定の見直しを行った。その結果、塗布ムラを解決することができ、引き抜き異常の改善、品質の安定化を行うことができた。



2) 「引当在庫の有効残自動計算化」  
(FA ロボット事業部 大阪営業所 野田氏)

受注量が多く計算が複雑化している在庫品種について、エクセルを用いて有効残数量を自動的に計算できるようにした。計算時間の短縮・ミスの削減・在庫変動の見え易化といった社内的な効果に加え、客先への納期回答や在庫問い合わせに対する対応速度の上昇など顧客満足度の向上につながる取り組みとなった。



安全衛生活動

当社は、安全衛生方針に基づく労働安全衛生マネジメントシステムの運営を通じ、安全かつ心身ともに健康で快適に働ける職場環境づくりに努めています。

労使で構成する安全衛生委員会を中心に年間活動計画を推進するとともに、安全パトロールやインシデント情報等から危険源を抽出し、対策につなげる安全の先取り活動を実施しています。また、安全教育やKY活動を実施し、知識習得や危険感受性を高める取り組みを推進する等、災害を予防する活動も積極的に行っています。

安全衛生方針

【理念】

人間尊重を基本とした安全と健康の更なる向上をめざして会社発展と従業員の安全と健康維持を推進する。

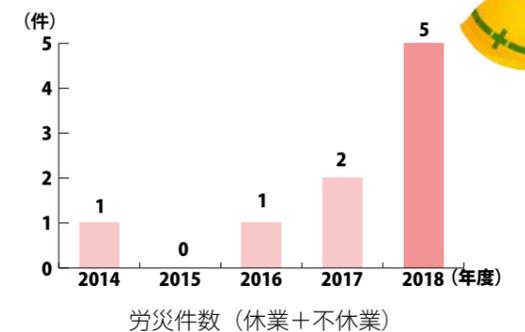
【活動方針】

1. 労働安全衛生マネジメントシステムを運用し、災害のない安全で健康な職場環境づくりを推進する。
2. メンタルヘルス対策の推進、および健康教室やスポーツイベントを開催し、こころと身体の健康づくりを推進する。
3. 5S 活動を展開し、快適な職場環境づくりを推進する。
4. 交通安全運動を展開し、無事故、無違反をめざす。
5. 中央安全衛生事務局としての機能強化を図り、安全衛生管理を推進する。

● 労働災害発生状況と活動

2018 年度は、残念ながら H7 年以降で最も多い休業災害 3 件、不休業災害 2 件の労働災害が発生しました。内訳は、転倒 1 件、その他 4 件（うち熱中症 2 件）です。特に熱中症に関しては、今後も温暖化による酷暑が継続する可能性があるため、再発防止の対策を確実に講じてまいります。

他方で、安全に対する意識低下も要因として懸念されるため、安全の意識、価値観を大切にす職場風土づくりにも重点を置き、再発防止に取り組んでまいります。



● 全社安全衛生管理組織の整備

当社の安全活動は、近年、事業活動の多様化等により、効果的、効率的な運用が行える体制を再編する必要性が高まっていました。

そのような中、2018 年 4 月に全社統括組織として安全環境課を新設し、全社の安全衛生管理組織である中央安全衛生委員会とともに、事業所独自の OSHMS や営業拠点を含めた全社安全衛生管理の機能強化を目指しています。

● 取引先を含めた安全衛生の取り組み

当社独自の活動として、構内委託製造会社、運送会社、食堂運営事業者等の取引先と連携して安全衛生協力会を組織し、活動を行っています。具体的には、年度総会で方針、年度目標、重点活動事項を定め、各社の活動報告を行うとともに、当社全事業所を対象とした中央安全パトロールを年 2 回計画・実施し、改善活動を行っています。異種事業者間の視点による合同パトロールは、当社ならびに会員企業の双方にとって非常に有益なものとなっています。

メンタルヘルスケア

● メンタルヘルスケア研修

2018 年度は、佐賀大学医学部から村久保准教授をお招きし、メンタルヘルス対策の一環としてラインケア研修を開催しました。「コーチングを活かす」をテーマに、ストレスと活力、活力と自己肯定感の関係を踏まえ、活力が育む自己肯定感がもたらす効果についてご講演いただき、自己肯定感を増す行為が人材育成につながることを、部下の欠点ではなく長所を伸ばす方が効果的であることをご指導いただきました。

当社は、各種活動、研修や面談に加え、産業医や保健師による健康相談やホットライン等を通じ社員のメンタルヘルスケアと健全な職場づくりを行っています。



ラインケア研修



当社は、ISO14001 に準拠して環境マネジメントシステムを構築し、環境保全活動を行っています。

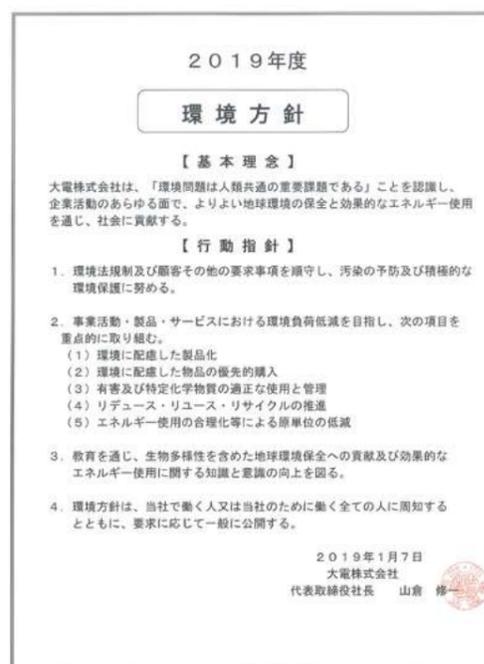
ISO14001 の要求事項をもとに全事業所で環境マネジメントシステム (EMS) を構築し、環境保全活動を行っています。2017 年に 2015 年版 ISO への移行を完了、2018 年 8 月にこれまで久留米事業所と同時に認証を受けていた本社を適用範囲から除外し、新たな体制で活動を推進しています。

二酸化炭素排出量削減や環境問題が世界的に注目される中、全社のエネルギー管理体制ならびに各事業所の EMS を基軸とし、積極的な省エネルギー活動や環境保全活動を展開しています。

環境マネジメント

● 方針と体制

◆ 2019 年度 環境方針



◆ ISO14001 認証



JQA-EM2103 (久留米事業所)  
FA・OA 用ケーブルの設計・開発及び製造  
2002 年に登録

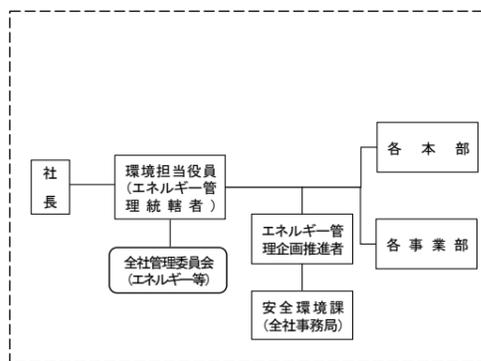
JQA-EM0608 (佐賀事業所)  
電線及びケーブル (電力線・通信線・光ケーブル・コネクタ付ケーブル)、電線・電力ケーブルの接続付属品、配電用機器、配電線路工事用機器の設計・開発及び製造  
1999 年に登録

JQA-EM7365 (上峰事業所)  
ネットワーク機器・油圧操作弁・バッテリーインジェクター・蓄電池監視装置の設計・開発及び製造、FA ケーブル用導体の製造、先端素材の開発  
2017 年に登録

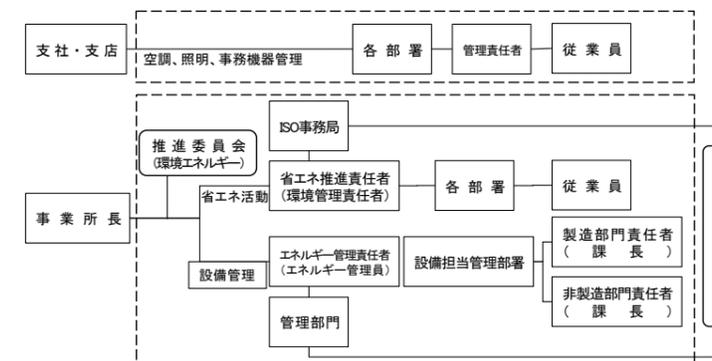
※当社は ISO14001 と併せて各事業所で ISO9001 認証も取得しています。

◆ 環境マネジメント組織図

【全社環境エネルギー管理体制】



【支社支店・事業所推進体制】



当社は、環境方針のもと上記の管理体制で省エネを含む環境保全活動を実施しております。有害な環境負荷を適切に管理し、有益な環境側面の取り組みにも力を入れています。有害および有益な環境側面は、改善のテーマとして捉え、スパイラルアップ活動を行っています。

● 全事業所で ISO 認証を取得

これまで久留米事業所 (FA ロボット電線事業部) と本社で同時に取得していた EMS から本社部門を適用除外とし、事業所で完結するシステムとしました。これにより各事業所が独立してマネジメントを行う体制となりました。また佐賀事業所 (電線事業部) では、2019 年 1 月から新たに営業部門を加え、品質 ISO の取り組みを開始しました。

● 内部監査・外部審査

各事業所では、ISO14001 の要求事項や EMS に基づく取り決めが確実に実行されているかを確認するため、審査機関による外部審査と社内監査員による内部監査を実施し、システムの継続的改善に努めています。

また、外部審査や内部監査で発行される「改善の機会」に対しては、「改善提案」として捉え、対応の是非をマネジメントシステムに従って判断の上、システムのスパイラルアップに活かしています。

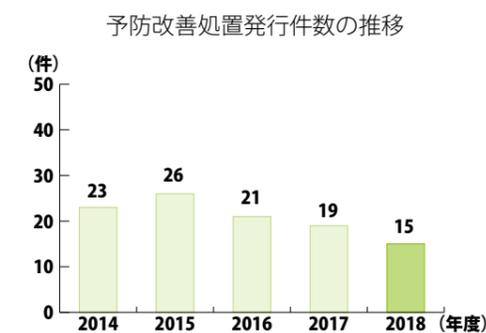
● マネジメントレビュー

各事業所で年 2 回のマネジメントレビューを実施しています。1 月に開催される前期マネジメントレビューでは、当該年の方針・目標が話し合われます。

2019 年 1 月に行われた久留米事業所の前期マネジメントレビューでは、事業所長から「業績の変動はあるものの、要員数や設備導入は当初計画どおり進めるため各部署は改善活動に注力して将来に備えること」との指示がありました。



マネジメントレビュー (上峰事業所)



内部監査 (久留米事業所)



環境配慮製品の開発

当社は、多様な製品群の開発を行うことで培ってきた特徴あるノウハウや技術を通じ、お客さまの声に耳を傾けながら環境配慮製品の開発を積極的に行っています。当社最新ラインナップの一部をご紹介します。

● 可動用 USB3.0 ケーブル

FA ロボット  
電線事業部

主にカメラ映像の信号伝送用として最大 5GHz での信号伝送が可能な USB3.0 ケーブルを開発しました。端末コネクタは StandardA タイプ（ロックネジ有・無）、microB タイプ（ロックネジ有り）から選択可能で、最長 5m で信号エラーなく通信出来ることを確認しています。摺動動作における屈曲性能は 1 億回以上と、高速通信性能と耐屈曲性能を両立したケーブルです。



可動用 USB3.0 ケーブル

～ お客様の声 ～  
 ✦ 他社製品では、断線が発生しお客様にご迷惑をおかけしていましたが大電製に切り替え解消することが出来ました。  
 ✦ 5m で伝送してもカメラの映像が乱れないのでお客様への提案内容が広がりました。

**DYDEN VOICE** 電力ケーブル用レイカブラ

研究開発部 機器開発課  
倉永氏

本製品は泥水が浸水するようなマンホール内でも長期間常設するものとして、長寿命・環境配慮を意識した構造設計や材料選定を行いました。レイカブラの導入が増えることで現場作業者の負担軽減に寄与できるものと期待しています

～ お客様の声 ～

✦ 完全防水対応のためマンホール内での長期間の常設が可能となり、非常にありがたい。  
 ✦ 外部からの電源が不要となり、現場作業が楽になりました。

**電力ケーブル用レイカブラ**

● 中国向け充電ケーブル

電線事業部

2019 年度に中国市場でリリース予定のトヨタ カローラ PHV、レビン PHV に使用する普通充電ケーブル（VCTC3）を開発しました。国際規格認証品で、従来品と比較し TPE 絶縁及びシース材料を使用して脱 PVC 化を図っています。また、絶縁材には当社開発材を使用し、GADSL にも対応した環境配慮製品です。

～ お客様の声 ～

✦ おかげさまで環境規制が厳しい中国市場での販売が可能となりました。

**充電ケーブル**

**DYDEN VOICE** 中国向け充電ケーブル

電線事業部 技術部 電線技術課  
池田氏

2019 年度に中国市場でリリース予定のトヨタ カローラ PHV、レビン PHV に使用する普通充電ケーブル（VCTC3）を開発しました。国際規格認証品で従来品と比較して、TPE 絶縁、シース材料を使用して脱 PVC 化を図っています。また、絶縁材には当社開発材を使用し、GADSL にも対応した環境配慮製品です。

● 電力ケーブル用レイカブラ

電線事業部

電磁誘導現象を利用した非接触電源装置です。送電線・電力ケーブルにクランプすることで電力を発生、供給することができます。完全防水仕様であり、マンホール内といった電源確保が困難な上に浸水するような現場でも、各種機器へ簡単に電力を供給することが可能となります。外部から電源を引く必要がなくなるので現場作業の負担軽減が期待できます。

● 圧力式水位計センサー用ケーブル

電線事業部

河川等の水位を測定するための圧力式水位センサーに付属するケーブルを開発しました。お客様現行品ではウレタンシースが使用されていましたが、当社 TPE シースの耐水性や耐塩素性を評価され、ご採用頂きました。なお、ケーブルの使用材料は、RoHS2 に対応しており、環境負荷に配慮した製品です。

～ お客様の声 ～

✦ 従来品より耐水性が優れており、評価しています。

**センサーケーブル**

**DYDEN VOICE** 圧力式水位計センサー用ケーブル

電線事業部 技術部 電線技術課  
濱田氏

製品化までの期間が短く、ユーザーと連絡を密にとり、効率的に試作・評価をしたこと、また、佐賀事業所ではケーブル内部にナイロンチューブを配置した構造及び補強線（ケブラー）に被覆は初めてのトライであり、色々と試行錯誤することで目標期間内に製品化することができました。

● DN1820E

機器事業部

10GHz 伝送に対応したメディアコンバータです。小型化を実現し、高さは従来品（DN1810E）の半分以下になりました。消費電力を約 15% 抑えることができる低消費電力機能も備えています。

RoHS2 適合品で、情報技術装置のイミュニティ規格である CISPR24 にも対応しています。

～ お客様の声 ～

✦ DN1820E は設定等特になく、とても使いやすくてよい。  
 ✦ 40km 伝送までなら単体置可能なところがよい。

**DN1820E**

**DYDEN VOICE** DN1820E

ネットワーク機器部 技術課  
安井氏

DN1810E の後継機種として DN1820E の開発を行いました。従来品からの小型化・省電力化に加え、ACアダプタ駆動に対応した製品です。伝送速度の高速化に伴い、採用していただける機会が増える製品になると期待しています。

● DN5161E

機器事業部

最大 120W 給電可能なインテリジェント SW-HUB です。小型化・軽量化に加え、MMC カードに対応したことで、メンテナンスや機種交換作業が容易に行えるようになりました。

各社新製品の中から「今年の一品」を決定する Interop Tokyo2018 Best of Show Award では、ファイナリストに選出されました。

RoHS 適合品であり、情報技術装置のイミュニティ規格である CISPR24 にも対応しています。

～ お客様の声 ～

✦ 前機種ポート数不足などの不満点が解消され、かつコンパクトになってありがたい。

**DN5161E**

**DYDEN VOICE** DN5161E

ネットワーク機器部 技術課  
徳淵氏、植田氏

インテリジェント SW-HUB のラインナップ拡大の1つとして DN5161E を開発しました。以前まであった同様の製品と比べて小型化し環境に優しい製品です。小型化に伴い排熱処理に苦労しましたが無事製品化することができ、多くのお客様に満足していただける製品を開発する事ができました。

● 直流電源装置用電圧監視装置

機器事業部

停電発生時のバックアップ電源として設置される直流電源装置・UPS に使用されている鉛蓄電池の状態を監視する装置を開発しました。製品には PC での設定ならびにデータの抽出を行う専用のアプリケーションソフトも含まれています。

～ お客様の声 ～

✦ 電池の状態を時系列で確認できるため、予防保全に役立っています。

**セル監視装置**

**チャンネル拡張装置**

**DYDEN VOICE** 直流電源装置用電圧監視装置

産業機器部 技術課（現NW機器部）  
安松氏

お客様でお使いの直流電源装置仕様にバリエーションが多い為、できるだけ汎用性を持たせる事ができるようにセット構成内容を検討しました。

環境方針や環境関係法規制、環境影響評価結果等をもとに環境目的・目標を設定し、改善活動に積極的に取り組んでいます。

環境実施計画の目標と実績

● 2018年度評価と2019年度目標

2018年度は、全社で61テーマの取り組みを環境実施計画書に掲げて推進しました。下記は代表的な取り組みの目標達成状況です。2018年は、全社で合計2件の未達成活動がありました。年度計画が達成できなかった場合は、翌年期首のマネジメントレビューで総括を行い、必要に応じて是正処置を施し、翌年（2019年）の取り組みに反映させています。

テーマ	2018年度目標	目標値	評価
環境配慮を含むニーズに応える製品の改良・開発 (環境に配慮した物品の優先的購入)	ニーズに応える製品の改良・開発 (FA ロボット電線事業部)	3件以上	○
	環境配慮製品のリリース (電線事業部)	5件以上	○
	開発5品種以上 RoHS 対応する (機器事業部)	5件以上	○
有害及び特定化学物質の適正な管理	製品含有化学物質の管理体制の構築 (FA ロボット電線事業部)	計画通り実施したかで判断する	○
リデュース・リユース・リサイクルの推進	排出物分別の向上 (FA ロボット電線事業部)	埋立産廃 14t/年以下	○
エネルギー使用の合理化等による原単位の低減	佐賀事業所改定原単位による定期報告の実施	計画通り実施したかで判断する	○
	佐賀事業所 エネルギー消費原単位削減 (1%以上)	原単位 113 以下 (kWh/t)	×
環境配慮活動の推進	PVC コンパウンドの DOP フリー化 (電線事業部)	3件以上	○
	改良 10 品種以上 RoHS 対応する (機器事業部)	10 品種以上	○

テーマ	2019年度目標	目標値
環境配慮を含むニーズに応える製品の改良・開発 (環境に配慮した物品の優先的購入)	ニーズに応える製品の改良・開発 (FA ロボット電線事業部)	6件以上
	環境配慮製品のリリース (電線事業部)	4件以上
	開発7品種以上 RoHS 対応化 (機器事業部)	7件以上
有害及び特定化学物質の適正な管理	RoHS2 保証体制の構築 (FA ロボット電線事業部)	計画通り実施したかで判断する
リデュース・リユース・リサイクルの推進	廃木材排出削減活動の実施 (機器事業部)	4件以上
エネルギー使用の合理化等による原単位の低減	佐賀事業所 エネルギー消費原単位削減 (1%以上) (電線事業部)	113 以下 (kWh/t)
	加工時間の短縮 (1%以上) (機器事業部)	400 時間 / 年以上
環境配慮活動の推進	新規部材の環境調査実施 (FA ロボット電線事業部)	100%

2018年度 環境管理表 (実績)

2019年度 環境管理表 (目標)



地球環境保全活動の主な取り組み

● 最新の技術や活動動向調査

2017年秋にドイツで開催された COP23 (気候変動枠組条約締約国会議) 以降、地球温暖化防止問題およびその他環境問題が世界的に注目されるようになりました。当社も、環境関連の技術革新や要求事項の変化について積極的に把握するように努めています。

これらの情報源として、久留米市エコなものづくり協議会、佐賀地区エネルギー管理委員会、電線工業会環境専門委員会への参画の他、各種研究会やセミナー等へも積極的に参加し、得られた情報を社内でも共有、展開しています。発信するツールとしては、電子メールの他、環境エネルギー推進会議、「環境ニュース」(月刊) や社内ポスターの発行、社内電子掲示板(ノーツ)、および社内講習会の開催等を活用しています。

● 環境エネルギー推進会議

各事業所から環境管理者、エネルギー管理者、本社統括部門の担当者が毎月参集し、環境管理に関する協議を行っています。近年は環境関連課題が増加しており、知恵を出し合う有効な実務者会議となっています。

抽出された課題は、各事業所での E M P に反映されたり、事業所連携の協働活動等へ展開されます。

2018年は、下記のような議題が協議されました。

- ・産業廃棄物 (廃プラスチック) 処理コストの低減
- ・佐賀事業所エネルギー原単位の適正指標化
- ・コンプレッサー省エネ診断の実施と対策
- ・汚水処理槽の機能管理
- ・未実施 (新しい) 省エネ活動メニューの検討



環境エネルギー推進会議

● 全社エネルギー管理委員会

社長を議長として各事業所長、各本部長が参加し、毎年夏季にエネルギー管理に関する委員会を開催しています (2017年から開始)。委員会では、直近に国へ提出されるエネルギー原単位の実績報告に基づいて、省エネに対する活動方針を決定します。

当社は、複数の事業分野を有しているため、設備更新においても一元的な管理が難しい面があります。国が掲げる2030年にCO<sub>2</sub>排出量26%削減(2013年度比)を達成するため、市場動向も可能な限り予見しながら、長期的な視野と戦略の下で適切な舵取りを行い、取り組んでまいります。

● グループ会社における環境保全活動

グループ会社である大電産業では、主要事業の一つとして使用済み電線を解体、分別し、ナゲット化による各種資材の再資源化を行っています。また、使用済ドラム (木製、鉄製) を回収し、補修、塗装等を施した再生ドラム製造も並行して行っています。このように各種リサイクル事業を通じ、循環型社会の一翼を担う取り組みを積極的に行っています。近年では、環境問題の高まりを受け、湿式型ナゲット粉砕処理機の導入、産業ロボットの導入等、事業効率化も積極的に進めています。



湿式ナゲット粉砕機



ドラム補修用産業ロボット



回収銅ナゲット



再生木製ドラム

会社概要

活動ハイライト

トップメッセージ

ガバナンス

社会活動報告

環境活動報告

事業活動が環境に与える影響をマテリアルバランスで表すとともに、環境保全に関わる費用とその効果を定量的に把握・分析し環境会計として情報開示しています。

マテリアルバランス

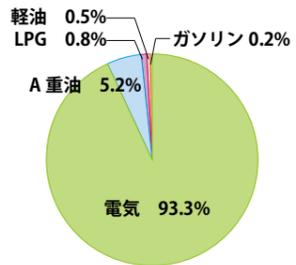
INPUT

資源

上水道	28,931 t
地下水	20,323 t
工業用水	166,440 t
銅	5,896 t
アルミ	1,783 t

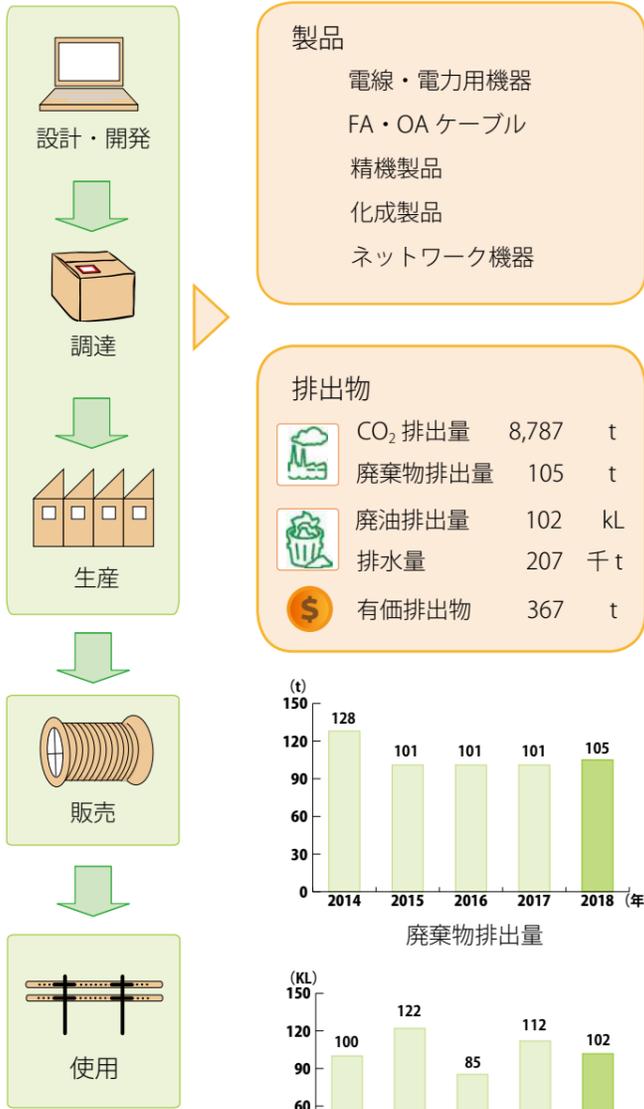
エネルギー

電力	17,208 MWh
A重油	240 KL
LPG	13.6 千 m <sup>3</sup>
軽油	26.0 KL
ガソリン	4.4 KL



エネルギー使用量内訳 (熱量換算)

OUTPUT



製品

- 電線・電力用機器
- FA・OA ケーブル
- 精機製品
- 化成製品
- ネットワーク機器

排出物

CO <sub>2</sub> 排出量	8,787 t
廃棄物排出量	105 t
廃油排出量	102 kL
排水量	207 千 t
有価排出物	367 t



地球温暖化防止／省エネルギー

● エネルギー使用量と CO<sub>2</sub> 排出量

◆ エネルギー使用量の推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
電気	17.1GWh	16.9GWh	16.6GWh	17.1GWh	18.0GWh	17.2GWh
重油	320KL	350KL	380KL	260KL	220KL	240KL
LPG	11 千 m <sup>3</sup>	13 千 m <sup>3</sup>	12 千 m <sup>3</sup>	12 千 m <sup>3</sup>	13 千 m <sup>3</sup>	14 千 m <sup>3</sup>
軽油	29KL	31KL	33KL	29KL	27KL	26KL
ガソリン	13KL	13KL	11KL	10KL	8KL	8KL
合計	180.1TJ	179.3TJ	177.6TJ	177.6TJ	185.2TJ	178.1TJ



(注) 合計には、燃料として使用していない軽油、ガソリンは含まれません。

◆ CO<sub>2</sub> 排出量の推移

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
電気	10,482t	10,362t	9,704t	8,705t	9,176t	7,967t
重油	864t	945t	1,026t	702t	594t	648t
LPG	68t	80t	75t	76t	81t	86t
軽油	75t	82t	85t	75t	70t	68t
ガソリン	30t	30t	26t	23t	17t	18t
合計	11,519t	11,499t	10,916t	9,580t	9,939t	8,787t



(注) 2013～2018年の電気のCO<sub>2</sub>換算係数は、九州電力が公表した各年度の排出係数を用いました。

● 省エネルギーの取り組み

◆ 省エネルギー率について



全社電力使用量と省エネ効果の推移 (支社・支店等除く)

省エネ効果 (%) とは、省エネ量を電力使用量で割った値です。2015～2018年の具体的な省エネ効果を上記のグラフに、2018年に効果のあった取り組み事例を右の表に示します。表では、2018年度の効果分のみを集計しています。太陽光発電設備は、2017年末に設置され、2018年に効果計上されていません。

当社は、地球温暖化防止のため、積極的に省エネ活動に取り組んでいます。

主な省エネ設備投資と 2018 年の省エネ効果 (単位: MWh)

主な省エネルギー取り組み内容	導入年度	省エネ量
本社 太陽光発電設備	2017年	12.0
本社 LED照明	2017年	1.4
久留米 物流棟 LED	2017年	13.3
久留米 442号押出機 I N V化	2018年	2.8
久留米 337号燃合機 I N V化	2018年	2.1
久留米 440号押出機 I N V化	2018年	0.8
佐賀 エアー漏れの削減	2018年	11.6
佐賀 工場、資材倉庫 LED化	2018年	91.0
上峰 各所 LED化	2018年	5.7

全省エネ量の推移 (全社) (単位: MWh)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
省エネ量	97.6	211.9	180.4	135.8

※ Gはギガを、Tはテラを表しています。K(キロ)の1,000倍がM(メガ)で、M(メガ)の1,000倍がG(ギガ)、G(ギガ)の1,000倍がT(テラ)となります。例えば、19.9GWhは、kWhで表すと、19,900,000kWh(1,990万kWh)となります。

環境会計

● 環境会計

環境会計とは、環境対策にどれだけコストをかけ、どれだけ効果が得られたかを定量的に評価することで、自社の環境保全への取り組みを改善していくための経営管理のツールで、その結果は事業者からCSR報告書等で公表されます。

当社は、環境会計を2008年度から実施しており、今回が11回目となります。

具体的には、環境コストとその効果を定量的に把握するため、「環境保全コスト」「環境保全効果」および「環境保全対策に伴う経済効果」を集計します。集計は、環境省の環境会計ガイドラインを参考にしました。

● 環境保全コスト

環境保全コストとは、環境負荷発生の防止や抑制、回避、環境影響の除去、発生した被害の回復または、これらに資する取り組みのための投資額および費用額を集計したものです。

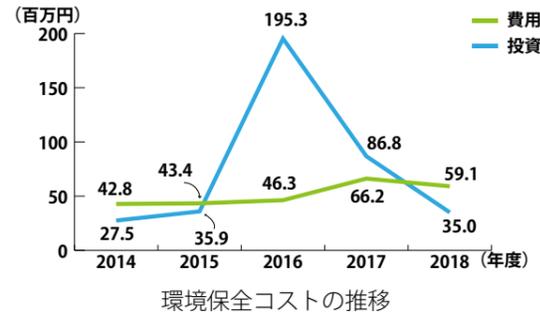
(単位：万円)

分類	主な取り組み	投資額	費用額
事業 エリア内 コスト	1) 公害防止コスト 大気汚染防止、排水処理施設維持管理	0	400
	2) 地球環境保全コスト 温暖化防止、省エネルギー活動	2,986	180
	3) 資源循環コスト 廃棄物の外部委託処理	0	1,201
管理活動コスト	ISO14001 審査費用、緑化、環境教育費用等	0	384
研究開発コスト	環境配慮製品の研究開発	510	3,746
環境損傷対応コスト	土壌調査、PCB 調査・処理	0	0
合計		3,496	5,911

2018年度の当社の環境保全コストは、投資額3,496万円、費用額5,911万円でした。

投資額は、2017年度に比べ3,122万円減少しました。主に「地球環境保全コスト」が3,158万円減少したことによります。要因としては、2017年度に工場空調機の更新(2,634万円)や太陽光発電(700万円)等の大型設備更新を行ったことがあげられます。

費用額は、2017年度に比べ2,765万円減少しました。2017年度は、「環境損傷対応コスト」としてPCB処理費用が655万円計上されていたことに加え、「研究開発コスト」が前年より1,620万円減少しました。



● 環境保全効果

環境保全効果とは、環境負荷発生の防止、抑制または、回避、影響の除去、発生した被害の回復、またはこれらに資する取り組みによる効果を物量単位で集計したものです。

	2017年度実績	2018年度実績	2017年度との差異
エネルギー投入量	185TJ	178TJ	▲7TJ
水資源投入量	219千t	216千t	▲2千t

	2017年度実績	2018年度実績	2017年度との差異
CO <sub>2</sub> 排出量	9,939t	8,787t	▲1,152t
廃棄物排出量	101t	105t	4t
廃油排出量	112KL	102KL	▲10KL
排水量	212千t	207千t	▲5千t

● 環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果とは、環境保全対策を進めた結果、当社の利益に貢献した効果を金額で集計したものです。2017年度と比べてエネルギー費削減額が560万円増加したこともあり、経済効果合計額は前年より634万円の増加となりました。

(単位：万円)

分類	効果の内容	金額
収益	廃棄物の有価物としての売却益	338
費用削減	省エネルギーによるエネルギー費の節減額	827
合計		1,166

生物多様性保全

● 当社の生物多様性保全の取り組み

当社は、2013年から下記のような生物多様性保全につながる取り組みを行っています。

- ①植樹、緑化、緑のカーテン
- ②グリーン調達
- ③有害及び特定化学物質の適正な管理
- ④省資源・省エネルギー活動
- ⑤ペーパーレス化
- ⑥再生ドラムの使用
- ⑦モーダルシフトの推進
- ⑧環境ニュース等を通じた教育啓蒙

生物多様性保全に関し「教育を通じ、生物多様性を含めた地球環境保全への貢献及び効果的なエネルギー使用に関する意識の高揚を図る。」を全社環境方針に掲げ、活動を推進しています。

● グリーンライフ活動

また、環境保全・生物多様性の取り組みに貢献する活動として、2015年度から「グリーンライフ活動(環境に配慮した暮らし)」を実施しています。活動内容は、次の通りです。

- ①樹木整備(植樹・整枝・剪定)
- ②花壇整備(土壌作り、植栽、追肥、消毒)
- ③緑地・芝地整備(除草、雑草対策、芝生手入れ)
- ④グリーンカーテンの推進
- ⑤事務所内緑化推進
- ⑥夏季の散水、打ち水

当社は、エネルギーロスを無くしながら環境にも社員にも優しい職場づくりを通じて、社会環境保全への貢献に取り組んでいきます。

● ため池の整備

環境保全・生物多様性の取り組みに貢献する活動として、佐賀事業所に隣接するため池(南池)の底土を除去し、生態環境改善のための整備を行いました。



佐賀事業所 南池



本社グリーンカーテン



上峰事業所 ひまわり花壇



久留米事業所 かがやきの杜(もり) 公園として整備し、市民の皆様へ開放しています



環境コミュニケーション

● 環境コミュニケーションの状況

項目	内容
CSR 報告書の活用	当社のホームページに掲載するとともに、工場見学者やお客さまに配付しています。2018年度版は、700部発行しました。
Webサイトの活用	本報告書とあわせて当社のWebサイトでもCSR活動について紹介しています。
環境ニュースの発行	安全環境課では、社内向けに環境に関する市場情報や社内活動のトピックをA3版のポスターにまとめ、「環境ニュース」として毎月発行しています。
排出通信の発行	久留米事業所管理課では、廃棄物削減を実現するため、排出物の誤分別防止を目的としたA4版の「排出通信」を発行しています。
社内LANの活用	当社の社内LANに「環境掲示板」を設置し、環境に関する情報を掲示しています。



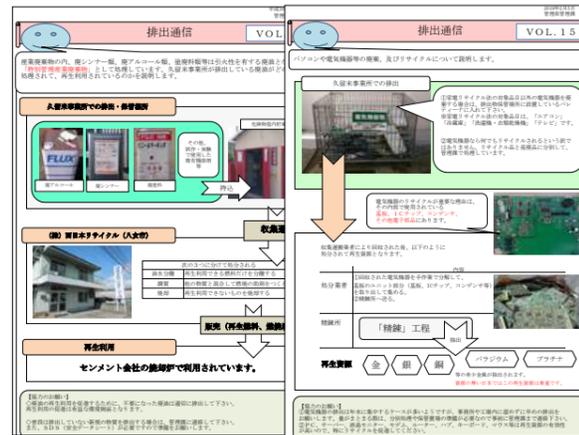
CSR 報告書の表紙 (2015 ~ 2018 年)



Web サイト CSR 活動



全社環境ニュース (毎月発行)



排出通信 (季刊発行)

- ▼エネルギー管理活動
  - Ⅰ. エネルギー管理委員会
- ▼エネルギー管理実績表
- ▼環境活動内容
  - Ⅰ. イベント情報
  - Ⅱ. グリーンだより
  - Ⅲ. CSR 報告書
  - Ⅳ. 環境月間活動
  - Ⅴ. 方針・目標
- ▼環境管理実績表
- ▼環境関連情報
  - Ⅰ. 社外セミナー・講習会情報
  - Ⅱ. 環境法情報
  - Ⅲ. 環境情報 BOX
  - Ⅳ. 環境ニュース
- ▼環境関連法規
  - Ⅰ. 環境法規制一覧
  - Ⅱ. 環境関連法務 (報告書等)

社内LAN 「環境掲示板」の掲載項目

法令遵守

● 法令遵守の状況

◆ 法令遵守への取り組み

法的責任者を設け、法令遵守に取り組んでいます。また、環境法規制等一覧表を運用し、定期的に遵守状況をチェックしています。新たに改正された法令については、環境エネルギー推進会議、環境ニュース、関係者へのメール等で改正内容の周知徹底を行っています。

◆ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律

○水銀使用製品産業廃棄物

2018年10月1日の法改正により、水銀回収を更に促進するために新たに「水銀使用製品産業廃棄物」等が廃棄物区分として設定され、他の産業廃棄物と区別して保管・回収することが義務付けられました。

当社では、主に使用済みの蛍光灯が該当するため、専用容器での保管による他の廃棄物との区別等の措置を講じております。

◆ ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法

2016年5月にPCB廃棄物の保管や処分等を定めた「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」が施行されました。

PCB廃棄物を保管する事業者は、毎年、保管・処分状況を都道府県等への届出が義務付けられています。事業者は、処分期限までに自社にPCB使用製品やPCB廃棄物がないかどうかを調査し、発見されれば、定められた期間内に処分する必要があります。

当社は、社内標準(廃棄物管理標準)を定め、高濃度(安定器等の油に含まれているPCBの重量の割合が0.5%超)および低濃度PCB(0.5%以下)使用製品を把握、管理しており、法の定める期限内に処分いたします。

◆ エネルギーの使用の合理化等に関する法律

当社は、特定事業者(エネルギー年間使用量1500KL以上)であるとともに佐賀事業所が第二指定工場(同1500KL以上)でもあるため、全社で省エネルギー活動の高度化に取り組んでいます。

2018年度は、各事業所を中心に、エネルギー使用量の低減に取り組まれましたが、エネルギー使用量の過半を占める佐賀事業所での生産量等の影響もあり、エネルギー原単位は前年対比で100.5%となり

ました。これらの結果を踏まえ、前年度に引き続き第2回エネルギー管理委員会を開催し、原単位低減のためのエネルギー管理活動計画について確認しました。また、省エネ活動の推進を目的とした会議体についても毎月行っており、最新技術の情報共有や自社に合った施策について具体的に協議しています。

当社は、支店等を含む全社が一丸となってエネルギー原単位の年1%以上の低減に取り組み、地球温暖化防止対策に貢献することを目指します。

各事業所の環境法令遵守状況

主な法律名	佐賀事業所	久留米事業所	上峰事業所
騒音規制法	※1	○	※1
振動規制法	○	○	○
エネルギーの使用合理化等に関する法律	※2	○	※2
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	○	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	○	○	-
工場立地法	○	○	○
毒物及び劇物取締法	○	-	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	○	○	○
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	○	○	○
土壌汚染対策法	○	○	○
フロン排出抑制法	○	○	○
水質汚濁防止法	○	-	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律	○	○	○
地球温暖化対策の推進に関する法律	○	-	-
浄化槽法	○	-	○
大気汚染防止法	○	○	○
消防法	○	○	○
水道法	○	○	○

○：問題なし -：該当しない

※1：第2種区分の騒音規制について、時間帯により基準値を超過することがある(対策実施中)。  
 ※2：事業所単体では、エネルギー使用量削減効果はあるものの生産量等の影響が有り、原単位前年比1%削減は未達成。



地域未来牽引企業

当社は経済産業省より地域未来牽引企業に  
選定されました



当社は Fun to share に賛同しています

## 大電株式会社

〒 830-8511 福岡県久留米市南 2-15-1

発行部署（お問い合わせ先）／安全環境課  
TEL：0942-51-2224 FAX：0942-51-2222

発行／ 2019年5月  
次回発行／2020年5月予定

表紙：久留米市 高良大社（撮影：林 賢宏氏）  
裏表紙：朝倉郡 筑前町 草場川（撮影：末永 行人氏）

### 環境にやさしい報告書作成を目指して

この報告書は、InDesign という DTP ソフトを用いて作成しています。印刷は認証を受けた森林から得られた「FSC 認証紙」に家庭などから排出される植物性の廃食油を精製して製造された「ベジタブルオイルインキ」を使用しています。また印刷は有害廃液の出ない環境に優しい「水なし印刷」で行っています。